

第6回サポーターズミーティングの開催結果について

1. 日時 令和4年1月13日(木)19時00分~20時30分
2. 場所 県庁3階311会議室(Web会議と併用)
3. 議題 今後の賑わいづくりの進め方(先行整備・暫定供用)について
令和4年度から実施を予定している広場等のオープンスペースの先行整備・暫定供用にあたり、持続的な賑わいづくりにつなげていくために留意すべき点や検証の視点などについて、小グループに分かれて意見交換を実施した。
4. 出席者(敬称略):

氏名	所属等
荒木 ゆい	江戸町自治会青年部 部長
岩本 諭	斜面地・空き家活用団体つくる 代表
江口 忠宏	DEJIMA BASE 代表
斉藤 秀男	地域おこし協力隊(長崎市琴海地区)
高浪 高彰	長崎雑貨たてまつる 店主
森 恭平	江戸町自治会青年部 役員
安元 哲男	アートケイク 代表
山田 早織	株式会社イーズワークス 出版営業部

5. 主なご意見等

○先行整備・暫定供用全般にかかるご意見

- ・ 歴史を感じるだけでなく、この場所は人が来てこそその場所。どんな取り組みでも一定の関連付けはできるので、まちなかにない、普段まちなかでできないことができる場所にすべき。
- ・ 暫定整備は、整備しすぎないでほしい。第二別館跡地のように更地でもできることはたくさんあり、その方が使い方が広がる。ベンチを置くとしても移動可能なものが良い。
- ・ 運営協議会について、組織のトップ、専門家、有識者等などでメンバーが構成されることが多いが、実際に使うプレイヤーが半分くらい占めるのが良いのでは。
- ・ 地元とのつながりを意識してイベント等を継続していくことが大事と考える。
- ・ 跡地の活用については「日常的」な利用と「イベント」等の利用の二つに分けることができる。暫定供用にあたっては、近隣に住んでいる人たちなどが日常的に集まる場所にすべき。サポーターズミーティングメンバー等のネットワークを参

考に、活動の掘り起こしを行うニーズ調査を実施しながら検証を進めてはどうか。

- ・ 先行利用を実行するチーム、運営に携わるチーム、すでに活動している既存のチームで役割を分けて、定期的に活動を行う、「プレ運営組織」を編成してはどうか。
- ・ 利用するのは長崎市内の人や団体が多いかもしれないが、「県民のもの」という意識は忘れないように。

○検証項目等にかかるご意見

- ・ 「売り」になる機能の検証。例えば、出島と調和した屋根など。単一的な感じではなく、芝生があったり石畳があったりするなど、立ち寄ってみたいと思わせる設えを持った場所にしてほしい。
- ・ まちなかなので騒音については検証する必要がある。跡地の石垣の上部分でも、石張り部分と矢板の西側の低い部分などそれぞれでどのくらいの音量なら出せるかなど検証してみるとよい。
- ・ 管理者の取り組みの検証が必要。利用の相談があったときに熱い思いを伝えながらアドバイスして成功に導いたり、必要であれば開催等に向けて支援をしてあげて、当日も臨機応変にフォローできるなど、利用者と相談する中で跡地への理解を深め、プレイヤーが愛着を持つように育成することが重要。
- ・ イベント主催者等へのフォロー（ヒアリング）が大事。次につなげてもらうチャンスを見逃さないことにもなる。あらかじめヒアリングすることを伝えておいて、利用直後に主催者からヒアリングすれば、忙しい人でも利用時に感じたことを教えてくれる。30分程度のWeb会議でもいいので実施すれば意見も出やすい。
- ・ 使うときのルールを示して、利用後は毎回検証をする。まずは何でもやってみて、やりっぱなしではなくそのあとに検証をすべき。地域の人々の声を聴いて、ニーズ調査をすることと同時並行でやったらいいと思う。
- ・ 県庁跡地は、県民市民の憩いの場としての水辺の森公園や、交通利用者等による賑わいの場としての長崎駅前等などとも性格が異なる。日常的な利用として、周辺がオフィス街である点を利用し、屋外でも仕事ができるような「屋外オフィス」の検証など行ってはどうか。
- ・ 駐車場があると訪れやすくなる。カーシェア、サイクルシェアなど交通関係の実証もやってみてはどうか。